

つなぐれ和泉っ子

～人と社会と未来の自分～

和泉



9

月号

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/izu>

新たな防災の視点

校長 荒海 透

40日間の夏休みも終わり、子どもたちの元気な声が帰ってきました。楽しい思い出をたくさんつくることのできた皆さんもいることと思いますが、一方で今年の夏休みも厳しい暑さや自然災害に苦しむ人が大勢いる夏となっていました。特に7月末の熊本地震、そして8月の千葉豪雨では大きな被害が出ました。犠牲となられた方々にお悔やみを申し上げるとともに、被災された方々に対しまして心よりお見舞い申し上げます。

防災の意識を高め、備えをしっかりとしなければいけないという思いを新たにする夏休みとなったわけですが、和泉小学校地域防災拠点においても、運営委員の皆さんが今年度の訓練に向けて準備を始めてくださっています。今年度の地域防災訓練は11月15日(日)です。それに先立ち夏休み直前の7月17日に「令和8年度第1回和泉小学校地域防災拠点運営委員会」が和泉町わかば会館で行われました。自己紹介や役割分担、今年度の訓練の方向性などについて話し合うのは例年通りですが、委員会の最後は「AI活用研修」の時間となりました。実際に災害が発生した時を想定して、考えられる対応策などをパソコンに打ち込み、AIに評価をしてもらったり、よりよい対応策について紹介してもらったりする時間となりました。実際に大きな被災にあったことがない者にとって、考えられる対応策には限界がありますし、判断に時間もかかります。そういった意味で防災に関する場面においてもAIが役に立つということがよくわかりました。今回の被災地域において、AIがどのように活用されたのか、今後明らかになってくることと思います。

また、今回の2つの災害では想定外、あるいは想定以上の事態ということもありました。熊本の地震では大きな商業施設での爆発があり尊い命が奪われました。一度は全員建物から避難することができたにも関わらず、再度建物内に戻ったことにより爆発に巻き込まれてしまったということでした。爆発という事が想定外だったのかもしれませんが、マニュアルの遵守という点が重要な分かれ目となったように感じました。千葉豪雨では急激な水位の上昇により多くの車が走行不能になり、車から脱出することができなくなったり、車をその場に放置せざるを得なくなったりすることが問題となっていました。これまでも大雨の際に車が立ち往生して動かなくなるといったことはありましたが、今回の状況は皆さん想定以上だったと感じていることでしょう。

これまでの経験から学んだことをしっかりと生かしていくということと、予測することが難しいことに対しても想像力を働かせて備えていくことの大切さを感じました。学校現場では東京の小学校での火災を受けて避難訓練の見直しも迫られています。繰り返し行うことで頭や体に染み込ませていく訓練も大切にしながら、世界や日本各地で起きている災害を「対岸の火事」と片付けることなく、新しい視点で和泉小学校の防災に対する取組をブラッシュアップしていきたいと思っています。